

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成26年 7月21日	評価結果市町村受理日	平成26年 9月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2372102216-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 8月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を理念とし、入居者様“本意”のサービス提供を基本に運営しております。接遇に関して「入居者様はおお客様である」という事を念頭に置き、人生の大先輩である事を意識した言葉遣いやプライバシーの保持・尊厳への配慮など徹底して取り組んでいます。
施設周辺には田畑が広がっており、一年を通して四季折々の風景を感じる事が出来ます。また、定期的に小中高の生徒達との交流会や職場体験を受け入れており、地域との繋がりが大切にしており、レクリエーションにも力を入れており、年に1~2回の外出支援・毎月の誕生日会・季節毎のイベント(流しそうめん・花火大会・文化祭・クリスマス会等)を企画し、当事業所での入居者様の生活がより豊かに楽しみを持って過ごして頂けるよう提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで何度チャレンジするも実現出来なかった『運営推進会議への町総代の出席』であるが、長年の努力により新総代の出席が実現した。事業所幹部は、これまで難しいと言われて来た『地域交流にも明かりが見えて来た』と受け止めている。これを機会に地域の恩恵を受けながら、事業所の資源(人的・物的)を地域に還元して行く、そんな互惠関係の構築される事を期待したい。
食事の際『ゴウヤ・キュウリ・トマト朝採ってきたよ』、『私が刻んだの』、『私の味付けどうかしら』と、和気藹々の食事風景である。食後は皆でお膳を運び、先ほどまでお喋りしていた利用者がエプロン姿(まるで職員の様)で全員の食器を洗い上げ、テーブルに置かれた食器を利用者が拭き上げる。理念の『いたわりあい・たすけあい・おだやかに』が利用者の日常でも実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に事業所理念「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を掲示し常に確認できるようにしています。	『いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす』を理念とし、掲示板に掲げている。理念を展開し、日常的に職員が見守り、「互いに助け合い、労わりあい、家庭的な雰囲気作り」に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ボランティアの方々による踊りや演奏会、地域の学生との交流会をおこなっています。	隣接3学区の小学校と交流し、敷地内隣接事業所との交流により短歌の交換等もやっている。秋祭りには地域より100名程の参加もあり、地域の敬老会行事に法人の車を提供する等、地域との交流に努めている。	正式に町内会に加入し、真の隣組の付き合いを知る中で、施設の資源(人的・物的)と地域の資源とを相互に提供し合う、真の互惠関係の構築に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、施設で研修を開催しており、外部の方やご家族様へ自由参加の案内をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族様を始めとする各出席者の疑問や意見を聞きながら事業所運営に参考にさせて頂いております。	民生委員を始め、参加者の尽力により念願の地区総代の参加が実現し、これから運営推進会議の真の成果が期待される。	報告・情報交換に留まらず、具体的なホームの課題(災害時の地域の協力等)を話し合い、参加者から多くの意見の出る継続性のある会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護サービス相談員の受け入れを行っております。	管理者交代に際し、行政窓口へ頻繁に相談・報告を行っている。地域包括・介護相談員の運営推進会議への出席、介護相談員の受け入れ、グループホーム小部会への参加等、ホームの状況は行政に伝わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除委員会を設置し毎月会議を行い、内容の手引きや解釈・研修会にて施設職員への教育をしております。	併設する事業所の通用口は職員から死角となっているため、職員の手薄な状況で不穏利用者のいる場合に限り施錠している。通常は利用者が自由に行き来し、事業所間の交流を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて、職員への理解と解釈について教育しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小部会企画の研修やその他の外部研修に出席し、制度の理解に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時にはご本人様およびご家族様へ納得して頂けるまで説明し、その上で同意を頂くよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会を開催し意見や要望を頂いております。また、重要事項説明書には相談窓口の案内を添付しております。	家族アンケート依頼の際、『忌憚のない意見を』とお願した結果、アンケートの回収率は大幅に向上した。家族会を年2回開き、料金・介護保険改定、ホーム状況等を説明し、意見・要望の聴き取りを行っている。	家族アンケート回答者9名中6名の家族が『職員の異動が多い』ことに不安の意を表している。法人の事情はあるものの、少しでも家族が納得できる説明を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に1回開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けております。	管理者は『風通しの良い職場』をモットーに、随時意見を聞く様に心掛けている。職員から、『何時でも話し易く信頼している』との話があった。トイレや浴室の整理整頓、五平餅作り等は職員提案が活かされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を新たに設けマンツーマンで指導しております。また、個々のレベルに応じた各種研修会を企画し、新人・中堅・指導員・サブリーダーへの教育に力を入れております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市小部会や中三河ブロック交流会に参加し、研修会・施設見学など積極的に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にアセスメントを取りケアプラン作成に反映させています。また、コミュニケーションを大切にしたい関わり方にも力を入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの相談を真摯に受け止め、その場で解答するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当社は併設型の複合施設であり、ご本人様の状態に合わせたサービスを選択する事ができます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特徴である「家庭的な雰囲気」を大切にし、入居者様に寄り添ったケアを行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊の申し出は快く受け入れており、ご本人様とご家族様による「家族の時間」を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人による面会も受け入れております。また、要望があれば電話対応もしています。	事業所間の行き来や、講師を招いての書道教室に有料老人ホームからの参加もある。鰻屋を経営していた利用者には鰻を出して話を盛り上げ、ダンパーの運転手にはタバコを吸いながら話を引き出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人トラブルにならないよう席順の組み合わせに配慮しております。職員が間に入り入居者同士の関係が円滑になるよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様と現状の様子をお伺いしたり、ご連絡が来たら対応し相談に応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話等のコミュニケーションを取りながら要望を受け入れ、パーソンセンタードケアを大切にしています。	日常の会話から昔の輝いていた時代を回想し、喫茶店に行きたいと言えば連れて行っている。余り喋らない利用者には、家族から『畑仕事が好き』との情報を得て、ホームの畑の水撒きや草むしりを実現した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを元に環境整備し、利用中の様子を報告しながらご本人様に繋がる情報収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	嘱託医による毎月の往診・長谷川式スケール・ADL評価を行いながら状態変化の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にADL評価・担当者会議・ミーティングを行い、現状がケアプランに反映されるよう取り組んでおります。	介護記録には、利用者の発した言葉が記録され、日々の暮らしが鮮明に表現されている。3ヶ月毎のモニタリングを行い、サービス担当者会議には家族も同席し、サービス計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアを行った内容・医療従事者による意見や対応などを詳細に記録し、職員共通認識をなすよう心掛けております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望に応じて職員および他職種との連携を図り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援による社会参加、ボランティアの受け入れ、小中高の学生との交流会、地域の結びつきを大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による週に1回の内科往診、月に1回の心療内科往診があります。また、必要に応じて外部の医療機関への受診対応も行っております。	殆どの利用者が協力医をかかりつけ医とし、週1回の協力医の内科往診、月1回の診療内科往診がある。希望でこれまでの医療機関を利用する場合は、家族に情報提供を託し、家族からの報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に「看護部」を設置し、朝夕2回の巡回や医療処置に関する対応が完備されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の初期対応や入院中のアセスメントなど、医療機関と密に連携を取りながら状態を把握し、看護サマリー及び診療情報提供書などの情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護認定が3以上になった方に関して重度化対応としケアプランに反映させ、今後の対応について本人様及びご家族様へ説明して安心して利用継続頂けるよう努めています。	重度化・終末期の対応については入居時に同意を得ており、食事が摂れなくなったり、医療行為が必要になった場合は退居を促す事となる。介護度3以上認定の時、主治医の重度化対応介護開始の指示の際、『重度化対応介護計画書』を作成し実践している。	重度化対応の在り方については、前向きな職員と消極的な職員がいる。管理者の思いを伝え、意志統一の為にホーム内の研修を行うと同時に、『重度化対応介護計画書』の効果をより活かす工夫を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急及び急変時の対応について研修会やミーティングを行い、スキルUPを図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練、避難経路および場所の取り決め、施設職員における災害時の役割分担、全職員が共通認識とするよう取り組んでいます。	年2回の避難訓練を、日勤帯想定、夜間帯想定で行っている。避難経路、緊急連絡網の確認、消火器、AEDの操作確認を行っている。	夜間の災害発生時には、地域の方々の協力が不可欠である。運営推進会議の議題として取り上げ、地域の協力体制構築を具体化される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重んじるとともにプライバシー保護への配慮を行っております。	利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を忘れず、丁寧な言葉かけをする事を心がけている。入浴・トイレ介助時の羞恥心への配慮、トイレ誘導時のさりげない声かけ等を、職員ヒアリングで聞くことが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す声掛けを徹底し、見守り・気配り・心配りを欠かしません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを重視し、職員都合で生活の過ごし方が決められてしまわないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立支援・自己決定を基本とした更衣・整容への視線を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態を容易しています。また、食事作り・片付け・好みの把握をしながら「食事」に関わる全てに入居者様の参加を促しています。	野菜作り・収穫、食材刻み、味付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き等、個々の『力量』に応じて職員と協働して、食事への関心を引き起こしている。月1回の特別食は、旬の物、食べたい物等要望に沿っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康状態を把握しながら栄養バランス食事量等に配慮しています。一人一人の食事水分量の把握をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについての研修会開催や、自立支援を基本としたケアを提供しております。又研修会等を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極端にオムツ対応を選択するのではなく、自立支援を基本に職員の関わり方から工夫しています。オムツの使用は最終段階であると全職員に周知しています。又介助が必要な方には、2時間おきに誘導しています。	利用者個々のパターンや特性をつかみ、時間を定めて声かけ・誘導し、トイレで排泄出来る様に支援している。トイレに行く習慣付けにより、日中、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動・生活サイクルの工夫をしながら医療面からも捉え、必要があれば主治医へ相談して解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員配置の都合上、入浴時間帯は決めさせて頂いております。その中で、自己決定を尊重しながら入浴を楽しんで頂いています。	入浴は午後の時間帯で、利用者の希望を考慮した隔日入浴となっている。拒否のある利用者には、入浴前から会話の内容を工夫し、タイミングを見計らった無理のない誘導で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けてありますが、希望に合わせて就寝時間は自由に決めて頂いています。また、夜間帯は夜勤者2名による2時間に1回の巡回を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助のマニュアルを徹底し、主治医と連携を取りながら薬剤情報についての知識を高めるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション・一人ひとりの能力に合わせた役割分担・特別食の提供・季節行事など、生活に「楽しみ」を持っていただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、レク企画による外出支援などを設けております。	重度化が進み、全員対象の外出は難しくなった。元気な方は食材の買い物や喫茶店へとよく出かけ、車椅子の方は畑の野菜を収穫し、中庭を散歩している。裏の畑道の散歩では、畑の方と挨拶を交わしている。毎年1回、日帰り温泉旅行を皆で楽しんでいる。	家族アンケートでは厳しい評価を受けている項目である。家族の望む外出支援と家族の現状認識にズレが感じられる。利用者の日常を、より理解しやすく伝える工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭所持をして頂いております。基本的に、貴重品や現金に関しては施設預かりをお断りさせて頂いており、本人様での管理としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望・希望・必要に応じ対応しています。又手紙などのやり取りをされ近況報告をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活動線上に不必要な物は置かないようにし、季節感のある装飾物を飾ったり音楽を流したりと演出しています。また、環境整備委員会を設置し、積極的に取り組んでいます。	居間は中庭に面し、緑に囲まれた明るい造りになっている。テーブルには採り入れたばかりの野菜が置かれ、季節感を醸し出している。居間にはレクリエーションの場が確保され、廊下には利用者の笑顔の写真が多く貼られ、快適な環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が互いの居室を行き来されたり、好きなように自由に楽しんで頂ける環境作りに配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ持ち込む家財道具に制限はなく(危険物を除く)、本人様が過ごしやすい空間作りを優先的に考えております。ご自宅で使用されていた居室に置くことで、安心して過ごせる空間を作ってます。	居室には使い慣れた筆筒・ベット・仏壇等、馴染の物を持ち込んでいる。壁には外出時の写真・孫よりのハガキ等を飾り、家族持参の花等、一人ひとりの個性溢れる居室は、利用者の生活歴その物である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の確保・自立支援の徹底・パーソンセンタードケアを基本とした支援を行っております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町西之切50		
自己評価作成日	平成26年 7月21日	評価結果市町村受理日	平成26年 9月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2372102216-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年 8月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を理念とし、入居者様「本意」のサービス提供を基本に運営しております。接遇に関して「入居者様はおお客様である」という事を念頭に置き、人生の大先輩である事を意識した言葉遣いやプライバシーの保持・尊厳への配慮など徹底して取り組んでいます。施設周辺には田畑が広がっており、一年を通して四季折々の風景を感じる事が出来ます。また、定期的に小中高の生徒達との交流会や職場体験を受け入れており、地域との繋がりがりも大切にしております。レクリエーションにも力を入れており、年に1~2回の外出支援・毎月の日誕生会・季節毎のイベント(流しそうめん・花火大会・文化祭・クリスマス会等)を企画し、当事業所での入居者様の生活がより豊かに楽しみを持って過ごして頂けるよう提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リズムフロアの掲示板に貼り付け、常に職員の目に届く位置にあります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に数回ボランティアによるイベントや、地域の学生との交流会をおこなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、施設で研修を開催しており、外部の方やご家族様へ自由参加の案内をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域総代・民生委員・家族代表・介護サービス相談員の方々に主席して頂き、運営状況などの報告をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護サービス相談員の受け入れを行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束についての研修会を開催し理解を深めるよう努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外での研修に参加し理解に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開催しているが、まだ事例がなく実践に至らず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長および管理者よりご家族様へ説明し同意を得、理解頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見交換をする機会を設けております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を全員参加で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会・連絡協議会中三河ブロック交流会にて、施設見学や研修会・親睦会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントや面会時に、ご家族様からの話をしっかりと聞き入れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族会などの機会を活用しコミュニケーションを図っています。また、ご家族様へ困りごとや要望はないか聞き取りにも心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ1対1で会話ができる時間を設けラポールの構築に意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ずご家族様へ最近の様子などをお伝えし、困りごとや要望はないかをお聞きしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内(併設型)のデイサービスへ馴染みの方とマージャンをしに行くなど、そういった交流を大切にしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家庭菜園などに参加して頂き、職員が付き添いながら自立支援を基本に入居者間の関係が円滑になるよう心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会時には必ず声を掛け、良好な関係を築けるよう心掛けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様・ご家族様の要望や想いを大切にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様との会話の中やアセスメントなどから把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の勉強会を開き、全職員が統一した記入に努めています。また、記録の基本である「5W1H」を徹底させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、意見交換や現状報告をし合いながらケアプラン作成に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝雄申し送り・介護記録・申し送りノートなど、必ず全職員が目を通して把握するよう心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回のミーティングや必要に応じて話し合いをする場を設け、入居者様の情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援による社会参加、ボランティアの受け入れ、小中高の学生との交流会、地域の結びつきを大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による定期的な往診を行い、入居者様の健康管理に努めております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師による日中の巡回や、必要に応じて看護師と連携を取りながら素早い初期動作に心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のアセスメントや退院時の看護サマリー・診療情報提供書などを把握し、ケアを統一しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護認定が3以上になった方に関して重度化対応としケアプランに反映させ、今後の対応について本人様及びご家族様へ説明して安心して利用継続頂けるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会を開催し、対応できるよう備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練、避難経路および場所の取り決め、施設職員における災害時の役割分担、全職員が共通認識とするよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を重んじるとともにプライバシー保護への配慮を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けにて本人様の思いや要望を聴き出せるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを重視し、職員都合で生活の過ごし方が決められてしまわないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立支援を基本としながら、ケアプランにも反映させて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態を容易しています。また、食事作り・片付け・好みの把握をしながら「食事」に関わる全てに入居者様の参加を促しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏りのない献立・個人に合わせた量・きれいな盛り付け・食べ残しに留意しております。また、水分摂取量にも気を配り、脱水症にならないよう注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについての研修会開催や、自立支援を基本としたケアを提供しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極端にオムツ対応を選択するのではなく、自立支援を基本に職員の関わり方から工夫しています。オムツの使用は最終段階であると全職員に周知しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動・生活サイクルの工夫をしながら医療面からも捉え、必要があれば主治医へ相談して解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けてありますが、希望に合わせて就寝時間は自由に決めて頂いています。また、夜間帯は夜勤者2名による2時間に1回の巡回を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助のマニュアルを徹底し、主治医と連携を取りながら薬剤情報についての知識を高めるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション・一人ひとりの能力に合わせた役割分担・特別食の提供・季節行事など、生活に「楽しみ」を持っていただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、レク企画による外出支援などを設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭所持をして頂いております。基本的に、貴重品や現金に関しては施設預かりをお断りさせて頂いており、本人様での管理としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望・希望・必要に応じ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り物を作り飾っています。また、季節の生花を生けて空間に彩りを添えています。こまめに清掃し、清潔を保つよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士が互いの居室を歩き来されたり、好きなように自由に楽しんで頂ける環境作りに配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ持ち込む家財道具に制限はなく(危険物を除く)、本人様が過ごしやすい空間作りを優先的に考えております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の確保・自立支援の徹底・パーソンセンタードケアを基本とした支援を行っております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	【重度化や終末期に向けた方針の共有と支援】入所者様の重度化が見られ、職員のレベルUPが必要である。	最後までGHで安心して過ごして頂ける様に職員のレベルUPが不可欠である。	重度化に向けて知識・技術の向上を図るため、勉強会や会議にて職員の意識統一を図る。	12ヶ月
2	35	【災害対策】年二回の消防訓練は行っていますが、地域の協力が不足しております。地域の方に協力していただける関係作りをしていきます。	災害時地域の方々との協力体制を築き、お互いが助け合えるような関係をつくる。	GH運営推進委員会・地域との交流会に参加し、施設への信頼関係を築き、お互いに協力できるような体制を整えていきたいと思ひます。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。